

Slovenia Monthly January 2016 vol.2-no.1

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2016年2月5日



～1月の主なポイント～

- 難民問題：**スロベニア政府は、傭政府による難民受入れ制限措置を受け、スロベニア国内への難民の入国を、独及び傭で難民申請を行う者に限定する措置を導入。
- 政治：**ムラモル財相が自身の金銭問題をめぐり辞表を提出したが、ツェラル首相がこれを不受理。スロベニア・ハンガリー合同閣議が開催され、難民問題や経済関係の強化について協議。
- 経済：**2015年は観光業が好調。外国人観光客数は独立後最大に。
スロベニア環境基金は、電気自動車の購入に際する補助金制度の継続を決定。
- 社会：**リュブリャナ市が「2016年欧州グリーン・キャピタル」に選出。
スロベニアが環境保護ランキングで180か国中第5位に。
- 治安：**傭紙が、2014年4月、リュブリャナ郊外でISが訓練を行ったと報道。スロベニア警察はこれを否定。

難民問題

●14日、ツェラル首相はメルケル独首相と会談し、すべてのEU加盟国による警察官等のギリシャへの派遣を通じたEU域外国境の防護、及びギリシャ・マケドニア間国境における不法移民の通過防止を柱とする国境管理の改善を提案した。

同日、スロベニア内務省は、13日までに傭より2568人の難民がスロベニアに送還され、これらの難民はスロベニアで再度身分確認が行われた後、傭当局に引き渡されたと発表した。

●20日、傭政府は、傭国内で受け入れる難民数を本年中で3万7500人に制限すると発表した。

●21日、スロベニア政府は、20日の傭政府による難民受入れ制限措置を受け、スロベニア国内への難民の入国を、独及び傭で難民申請を行う者に限定する措置を導入すると発表した。

●22日、ツェラル首相は、スロベニア・ハンガリー合同閣議においてオルバーン首相と難民問題について協議し、加盟国間の自由な往来を保障するシェンゲンメカニズムを維持すべきであり、そのためにはシェンゲン域外国境の効率的な防護が必要であるという点で一致した。

●25日、難民のバルカンルートに位置する7か国による内相会合が行われ、マケドニア・ギリシャ間の国

境管理強化及び難民入国に関する統一基準の策定に向けたツェラル首相の提案について協議された。

同日、ツェラル首相は、国会の質疑において、傭政府が難民の入国を拒否すれば、スロベニアも対クロアチア国境において、安全な国からの移民並びに独、傭及びスロベニアでの難民申請を行わない者の入国拒否といった相応の措置をとる用意がある旨述べた。

●1月31日の時点で10月17日以降合計44万1389人の難民がスロベニアに入国(1月では6万2785人)し、10月20日以降合計42万8586人がオーストリアに出国した。(STA通信、スロベニア警察統計)

政治

【内政】

●ムラモル財相が欧州ベスト財務大臣に選出【4日】

英バンカー誌は、2016年ベスト財務大臣5人を発表し、スロベニア経済の不況からの脱却と国内銀行システムの安定化への手腕が評価され、ムラモル財相が欧州ベスト財務大臣に選出された。

バンカー誌は、ムラモル財相のもと、スロベニアのGDP成長率は2014年に3%まで回復し、2013年

に対GDP比15%であった財政赤字は2015年には3%以下にまで減少したと評価した。

ムラモル財相は、受賞は光栄であり、この賞はスロベニアに対する国際的な評価であると受け止めていると述べた。

●ムラモル財相の辞表提出と首相による不受理【18日】

ムラモル財相は、リュブリャナ大学経済学部長時代に法的根拠のない手当を受け取っていたとされる問題を受け、国民の信頼を失い、これ以上職務を遂行することができないとして、ツェラル首相に辞表を提出した。一方で、同財相は、本手当を合法的なものとして信じて受領していたと述べ、今回の行動で影響を受けたすべての人々に謝罪し、手当の全額を返還すると約束した。

これに対し、ツェラル首相は、ムラモル財相は献身的に職務を遂行して成果をあげており、同財相の辞任はスロベニアの利益を損なうとして、辞表を受理しなかった。ツェラル首相は、ムラモル財相の最大の功績として政府の目指す公共財政の安定化を挙げ、財政規律法や民営化戦略の採択でも重要な役割を果たしたとしたほか、同財相の際だった貢献により、スロベニアは2014年から現在まで比較的高く安定した経済成長を達成していることを指摘した。

スロベニアに迫る！⑧

スロベニアの方言

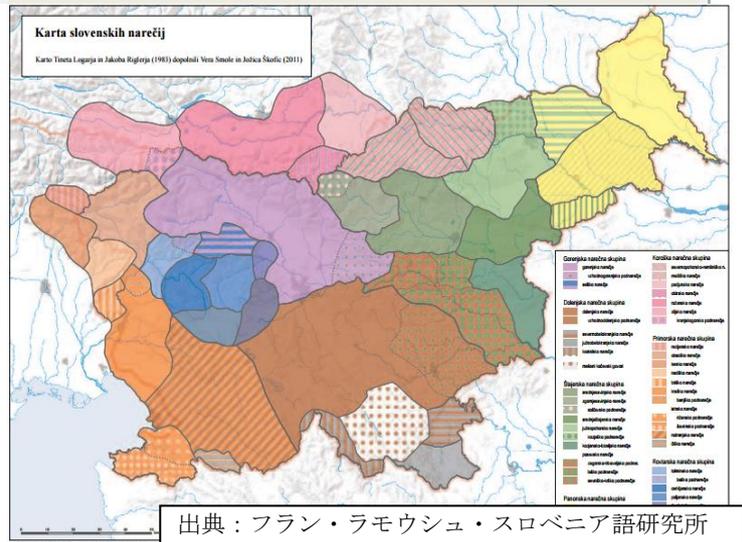
スロベニア語は、スラブ語の中でも話者数の少ない言語のひとつですが、方言は非常に多彩で、専門家によると約50近くの方言があるとされています。そのため、同じスロベニア人でも出身地が違えば内容が理解できないことがしばしば起こります。

方言が多様な要因として、山がちな地形の影響で長きにわたり近隣都市との交流が制限されていたことや様々な国の支配を受けた複雑な歴史背景があります。また、隣国の影響も大きく、例えば「こんにちは」をイタリアに近い西の沿岸部では「チャオ(Čao, Caio)」と言い、南部ではクロアチア語の「ボク(Bok)」が好まれます。

スロベニア語は、16世紀にプリモシュ・トゥルバル(Primož Trubar)によって初めて体系化され、現在の書き言葉や公共メディアで使用される標準語はこの流れをくんでいます。スロベニア国内で一番方言の影響が小さく、標準語に近い地域は、東部の古都ツェリエ市と言われています。

方言は大きく以下の7グループに分けられます。

- ① ゴレンスカ(中央部:紫)
- ② ドレンスカ(南東部:茶色、灰色)
- ③ シュタイエルスカ(北東部:緑)
- ④ パノスカ(北東部:黄色)
- ⑤ コロシュカ(北部:ピンク)
- ⑥ プリモルスカ(西部:オレンジ)
- ⑦ ロウタルスカ(中央部:青)



出典：フラン・ラモウシュ・スロベニア語研究所

【外政】

●スロベニア・ハンガリー合同閣議の開催【22日】

スロベニア・ハンガリー合同閣議が開催され、ツェラル首相及びオルバーン・ハンガリー首相をはじめとする多数の閣僚が出席した。合同閣議では、難民問題や経済関係の強化について協議された。両首相は、特に潜在的な大型インフラ案件の実施を通じた両国の経済関係強化の可能性について集中的に協議を行い、同分野における覚書に署名して鉄道及び道路整備における協力推進を確認したほか、潜在的なインフラ案件実施のための作業部会の設置を決定した。

●オレシュコビッチ・クロアチア首相の訪問【29日】

オレシュコビッチ・クロアチア首相がスロベニアを訪問し、ツェラル首相と会談を行った。両首脳は、難民危機の解決のためには関係国間の協力強化が重要であるという点で一致した。また、両首相は、難民の目的地である諸国の難民政策の変化が二国間関係における緊張を高め、西バルカン地域の安定を揺るがす恐れがあるとして懸念を表明した。

●ライチャーク・スロバキア外相の訪問【29日】

ライチャーク・スロバキア副首相兼外相がスロベニアを訪問し、エリヤヴェツ外相、ツェラル首相及びパホル大統領と会談を行った。ライチャーク外相は、会談の中で、難民問題、経済分野をはじめとする二国間関係、スロベニアとV4諸国との協力等について協議した。

経済

【マクロ経済・統計】

●2015年はスロベニア観光業界にとって最良の年に【10日、25日】

2015年1月～11月の全観光客数は対前年比11%増となり、宿泊数も初めて1千万泊を超えた。スロベニアを訪れる外国人観光客数も247万3千人で独立後最大となった。外国人観光客を国籍別で見るとイタリアが最も多く、次いでドイツ、オーストリア、クロアチア、韓国と続いた。リュブリャナの平均滞在日数は2日であるが、中でも米国人は滞在日数が最も長かった。日本人観光客数は11月までで約3万6千人であった。

●スロベニア財政の長期的な課題は高齢化【25日】

欧州委は財政の持続可能性に関する報告書を発表した。その中で、スロベニア財政では短期的には大きな問題は生じないが、中・長期的には高齢化に伴う社会保障費等の急激な増加により、課題に直面するとした。欧州統計局によると、2015年末でのスロベニアの累積公的債務は対GDP比84%と見込まれている。報告書では、中期的には従来のような財政政策をとれば、累積公的債務は対GDP比88%となるが、EUの定める安定・成長協定に従い、財政構造を健全化すれば57%にまで減少するとしている。

スロベニアに迫る！⑨

スロベニア人の生活への満足度

スロベニア統計局が昨年行った、国民の生活の満足度に関する調査によると、スロベニア人の自身の生活に対する評価は、0～10のうち平均で7.1となり、2014年から0.2ポイント上昇しました。今回の調査では約67%の人々が生活の満足度を7～10で評価し、5以下をつけた人は全体の8%だけでした。

また、生活必需品が欠如していると答えた人の割合は5.8%で、2014年から0.8%低下しました。経済的な問題を抱える人の割合が減少したことが、国民全体の生活満足度の上昇につながったと見られています。

【金融・企業関係】

●ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣のイラン訪問【10・11日】

ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、46名からなるビジネス代表団とイランを訪問した。同大臣は、経済省、道路省、農業省及び文化工芸・観光局の政府関係者との間で経済関係強化に向けた意見交換を行い、スロベニア政府とイラン政府間のエネルギー分野と経済協力に関する覚書にそれぞれ署名した。

首都テヘランでは、スロベニアのエアドーム製造会社「Duol」社、土木会社「Riko」社、テレコム機材製造会社「Iskratel」及び技術システムソリューション会社「Comita」社による合同事務所が開設されたほか、家電メーカーの「Gorenje」社も広さ350平米のショールームをテヘラン中心部に開設した。

●新エネルギー・コンセプト策定作業の進捗状況【13日】

インフラ省は、昨年発表した新エネルギー・コンセプトの骨子に対して寄せられた1000件超の提案に関する分析結果を発表した。同コンセプト案は本年末までに作成、2017年末までに議会で承認される予定である。

新コンセプトは、環境的観点から持続可能なエネルギー資源、確実なエネルギー供給及び競争力に重点を置き、化石燃料から低炭素エネルギー資源への段階的な移行が目標とし、政府は再生可能エネルギー資源の利用最大化及びエネルギー効率の促進を目指している。

●ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣のポーランド訪問【18・19日】

ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣率いるスロベニア企業24社からなるビジネス代表団がポーランドを訪問し、同大臣はレベツキ・ポーランド開発副大臣と会談を行った。

また、両国の旅行会社が出席して「観光に関するビジネス・フォーラム」が開催され、スロベニアの旅行会社が、50社に上るポーランドの旅行会社に対し、スロベニアの観光ポテンシャルを紹介した。

●電気自動車への補助金制度の継続【19日】

スロベニア環境基金は、電気自動車の購入に際する補助金制度を昨年に続き継続し、本年2月に新たな助成金の公募を行う旨発表した。昨年は、車種

に応じて1台あたり2,000から5,000ユーロの助成金を供与されたが、本年は1台あたり3,000から7,000ユーロに増額される。

環境基金は2011年以降、180万ユーロの助成金を電気自動車の購入に対して供与し、また、110万ユーロを、274台の通常の自動車の電気自動車化に対し供与した。

また、これまでに同基金は、環境関連の投資に対し、1,500万ユーロの低金利融資を行って来た。

社会・文化・スポーツ

●リュブリャナ市が「欧州グリーン・キャピタル」に【1日】

リュブリャナ市は「2016年欧州グリーン・キャピタル」に選ばれた。同賞は、都市環境改善の推進を目的として欧州委員会によって設立され、毎年専門家が選出した、最も環境に配慮した街作りを行っている都市に与えられる。リュブリャナ市は、2025年までに、環境や生活の質の向上のために、93件のインフラ事業を計画している。同市では年間を通して環境に関する多くのイベントが開催される予定である。



●ドキュメンタリー映画「テラ・マジカ」【21日】

18日、ブルダ地方のワイン醸造業者に関するドキュメンタリー映画「テラ・マジカ」のプレミア上映が、リュブリャナのキノ・ドゥヴォルで行われた。同映画は、監督でありカメラマンでもあるユーレ・ブレツェルニク氏による最新作で、ワールドプレミアは昨年11月にブリュッセルで行われ、今回のリュブリャナで4回目の上映となる。同作品は、ワインにそれほど精通しておらず、醸造学の素人としてアプローチし感銘を受けた者の視点から描かれている。「最良のカベルネは米国産、最良のソーヴィニオンはニュージーランド産、最良のシャルドネは豪州産である。しかし、世界最良のワインはブルダ産である」と、映画の予告編でスト

ヤン・シュチュレークのワイン醸造業者は印象的なコメントを残している。

スロベニアに迫る！⑩

クレント・カーニバル

スロベニア北東部にある国内最古の街として知られるプトゥイ市では、毎年2月に伝統的なお祭り、クレント・カーニバルが開催されます。クレントとは、冬と邪気を追い払い、春を呼び込む悪魔として、古くから言い伝えられている民族的シンボルです。カーニバル期間中は昼夜にわたり、パレードやコンサート、民族文化のイベントなどが行われます。

今年で第56回目となるクレントのお祭り、クレントバニエ(Krentovanje)は、2月2日(火)から9日(火)にかけて開催され、メインとなるインターナショナル・パレードは7日(日)13時より開催されます。このパレードにはスロベニアのクレントに加え、オーストリア、ブルガリア、セルビアなど9カ国の代表が参加します。2011年には秋田県男鹿市より日本の「なまはげ」が参加しました。



(出典: クレントバニエ(Krentovanje)公式サイト)

●スロベニアが環境保護ランキングで第5位に【28日】

米イェール大学が発表した環境保護ランキングで、スロベニアは180カ国中、フィンランド、アイスランド、スウェーデン、デンマークに次ぐ第5位となった。同ランキングは、環境危害からの人体の保護及びエコシステムの保護の2分野における各国の取り組みによって評価されるもので、結果は先日スイスで開催されたダボス会議の場で発表された。

治安

●オーストリア紙が、ISがリュブリャナ市郊外で訓練を実施した旨報道【26日】

26日、オーストリア紙「Die Presse」が、塙情報筋からの話として、ISがEU内における足掛かりとするために、スロベニアに訓練所を有しており、リュブリャナ郊外の森林内施設にドイツ、ルクセンブルグ、スロベニア、オーストリア出身の男らが複数台の車で訪れ、イスラム教の講義や祭事に参加し、武器の操作方法を学んだ可能性があるとして報道。スロベニア警察は、2014年4月にドル・プリ・リュブリャナ地区のレクリエーション施設に多くのイスラム教徒が集まって、家族イベントを一度行っただけで、テロや犯罪を裏付けるものはなかったとして同報道の内容を否定。

発見！スロベニア

ベロクラニスカ・ポガーチャ(Belokranjska pogača)

スロベニア南部にあるベラクライナ(Bela Krajna)地方は、ベロクラニスカ・ポガーチャという地域特産のパンで知られています。このパンは卵と海の塩を材料に使い、上にキャラウェイの実を散らした平らなパンで、スライスすることなくちぎって食べられます。そして、オープンから取り出してすぐの熱々を食べるのが習わしになっています。ポガーチャは、現在ではベラクライナ地方と密接なつながりがありますが、もとは何世紀も昔、現在のセルビアやボスニアに住んでいた人々が持ち込んだのが始まりです。

スロベニアがEUに加盟した際、ベラクライナ地方の人々は、伝統的なレシピを欧州レベルで保護することを決め、現在ベロクラニスカ・ポガーチャを名乗ることができるのは、伝統的なレシピに従い、ベラクライナ地方でつくられたものだけとなっています。



在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

- スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。
- 本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックが出来ました！

当館のフェイスブックでは、スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせやレポート、スロベニア事情等の情報を随時発信しております。「いいね！」ボタンで当ページのフォローをよろしくお願いします。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

【領事からのお知らせ】

●「たびレジ」に簡易登録機能がつきました！

たびレジとは、いざという時、在外公館などから緊急時情報提供を受けられる外務省の海外旅行登録システムです。

この度このたびレジに簡易登録機能がつきました。メールアドレスと対象国・地域だけを登録することで、実際の渡航の有無やその旅行期間に縛られることなく、継続的に領事メール及び最新海外安全情報メールを受け取ることが可能となります。(ただし、緊急時の安否確認の対象とはなりません。)

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>